

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	837.57	2022/9/5
High	892.13	2022/9/9
Low	834.27	2022/9/5
Close	886.00	2022/9/9

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	3775.00	2022/9/5
High	4104.00	2022/9/9
Low	3761.00	2022/9/5
Close	4059.00	2022/9/9

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2017.00	2022/9/5
High	2190.00	2022/9/9
Low	1957.00	2022/9/5
Close	2177.00	2022/9/9

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	9093.00	2022/9/5
High	10082.00	2022/9/9
Low	8995.00	2022/9/7
Close	9976.00	2022/9/9



ニュースエクスプレス

プラチナ宝飾品市場の第2四半期パフォーマンスは玉石混交

プラチナ宝飾品主要市場の第2四半期のパフォーマンスは、コロナ禍や経済状況などから、玉石混交となった。

産業団体であるプラチナ・ギルド・インターナショナル(PGI)が発表した第2四半期の『プラチナ・ジュエリー・ビジネス・レビュー』によると、中国では第2四半期中に新型コロナウイルス感染症の拡大が2020年以来最もひどくなり、国内で3月以降前例のないロックダウン対策が取られている。

一方インドでは、地政学的な緊張やコモディティ価格の高騰、財政状況の変化、コロナ禍の中でも、経済は成長を続けた。宝飾品小売業者がプラチナ宝飾品を通じて利益を上げることに焦点を当てたことで、パートナー各社のプラチナ宝飾品の売上は2019年の同期と比べて110%の増加となった。

日本経済は、3月にコロナ対策の制限が取り除かれたことで個人消費が増えてコロナ禍から回復し、第2四半期は2.2%伸びた。プラチナ宝飾品販売は、純度の高いものが増えたことで増加した。また、ファッション・ジュエリー、男性向け宝飾品や資産性のある高級宝飾品など多様なタイプのもが増えたことも貢献した。

<https://www.metalsdaily.com/link/334294/mixed-second-quarter-performance-across-platinum-jewellery-markets.htm>

ロシア産プラチナ、契約更新で排除の可能性

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)によると、プラチナバイヤーがロシア産プラチナを排除する方向に動けば、プラチナの供給への懸念が再浮上する可能性がある。

WPICの『四半期レポート』によると、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻後も、ロシア産プラチナの供給は続いているが、供給契約更新の時期が来れば変わる可能性がある。ロシアは、ガソリン車・ディーゼル車の排ガス浄化に使われるプラチナとパラジウムの主要産出国。

今年の初めにロシアからの供給が止まる懸念されたため、どちらのメタルも高騰した。ロシアは南アフリカに次いで世界第2位の、世界の供給の約11%を生産する産出国。その後、世界経済の鈍化を受けて価格は落ち着き、自動車メーカーの需要も弱含み。

WPICによると2022年のプラチナの供給は需要を30.3トン上回り、余剰量は前年より若干減る予想。引き続き投資家はネットでは売りで、工業需要は減少するだろう。

<https://www.bnnbloomberg.ca/platinum-buyers-may-shun-russian-metal-when-contracts-renewed-1.1814713>

プラチナ主成分の新鉱物「苫前鉱」 東大の研究チームが北海道で発見

東京大学物性研究所は9月8日、北海道苫前(とままえ)町で採集した白金族元素の粒子である「砂白金」からプラチナを主成分とする新種の鉱物を発見した。同研究所は、この鉱物を「苫前鉱」(とままえこう、学名: Tomamaeite)と命名。触媒や電極など工業的に重要な役割を持つプラチナが天然でどのように存在しているかを示す重要な手掛かりになるとしている。

研究チームは北海道北西部を探索し、計8カ所で砂白金の採取に成功した。そのうち苫前鉱は、苫前町の海岸で採集した砂白金に最大20μm程度の微細粒子として含まれていたという。この化学組成を分析したところ、プラチナと銅が1:3の比率で含まれていると判明。そのような化学組成をもつ鉱物はこれまで知られていなかったという。

さらに詳細に調べるため、鉱物の結晶構造解析を実施。20μm程度以下の鉱物の結晶構造を分析は一般的に困難だが、研究チームは透過型電子顕微鏡を使うことで結晶構造解析に成功した。その結晶構造は、立方体の角にプラチナを置いて各面の中央に銅を置いた姿になるとしている。

日本では明治中期に北海道で砂白金の産出が初めて確認できた後、しばらくは砂金に混じる不純物として廃棄されていたという。その後大正期に利用法が分かったことから、積極的に採掘されるようになった。しかし、戦時中に触媒の原料とするため大量に採取され、北海道の砂白金は消費尽くされた。

この影響で近代では国産の砂白金の研究試料が手に入りづらく、どのような鉱物で構成されているのかなど、研究があまり進んでいなかった。研究チームは希少な砂白金鉱床を探し、苫前鉱の発見に至った。また、北海道の砂白金は40種を超える白金族鉱物を含むことなども判明したとしている。

プラチナは天然の鉱物から抽出されたもので、装飾品や工業分野での触媒など多方面で利用されている。そのためプラチナがどのような鉱物にどのように存在するかは、鉱物学上で重要な課題であり、資源の在り方を考える上で社会的にも重要になる。研究チームでは今後、これらの解明や未知の鉱物の発見に取り組んでいく方針。

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2209/08/news172.html>

Translated by JBMA Osawa KAZUKO

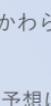
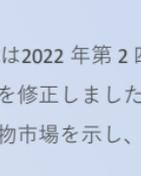


WPIC直近の活動

- 先週、WPICは2022年第2四半期のPlatinum Quarterlyを発表し、2022年の通年予想を修正しました。
- 逼迫した現物市場を示し、プラチナのリースレートは過去最高に近い水準を維持
- 強い逆風にもかかわらず、自動車、宝飾品、産業用の各セクターは持ちこたえる
- 2022年の総供給予想は8%減少
- 中国の輸入余剰が増加しているため、プラチナETF保有および取引所在庫は減少。

詳しくは2022年Q2 プラチナ四半期レポートをご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/supply-and-demand/platinum-quarterly>



(@wpijapan)